

ヒロセ通商株式会社
第17期定時株主総会 質疑応答要約

Q1.

(御意見) 貸借対照表について、数字だけではなく、増減理由も説明してもらいたい。また、貸借対照表や損益計算書について2期対比できるよう、前期分も載せてもらいたい。

A1.

参考にさせていただきます。

Q2.

(御意見) 欠席取締役が1名いるが、それに関して説明が全くない。その取締役は株主総会を軽視しているのか。そんな取締役は不要だと思うので、辞任なり何なりしていただければありがたい。

A2.

取締役の松田氏は、取締役の中で最高齢であり、新型コロナウイルス感染症の危険性が高いため、新型コロナウイルス感染症対策として、欠席しております。同氏が担当する管理部門について御質問等があれば、私（代表取締役社長）が承ります。

Q3.

(御質問) 同じ国内で、ヒロセ通商とJFX、2つの会社を持つ必要性があるのか。JFXは売上も少なく、1社に統合した方が、管理費も削減できて良いのではないのか。

また、海外の関連会社についても、本当に利益が出ているのか。どこかで見切りを付ける必要があるのではないのか。

A3.

JFXは、インターバンクで活躍してきた小林氏が社長として前面に出ることにより、FXのヘビーユーザーの囲い込みを行っております。それに対し、当社は設立当初から、小口の顧客を中心に支持を得ております。両社のターゲット層に少し違いがありますので、国内において間口を広げるという意味で、2社で活動しているのが現状でございます。

また、海外事業につきましては、法人向けのFX事業やカード決済事業について手応えが出てきておりますので、海外のマーケットを取り込むことで大きなチャンスを得られるのではないかと考えております。海外事業は、いろいろと先行投資を含めてやっておりますので、将来的には国内と同等の収益源になるものと思いき、今後も取り組んでいきたいと考えております。

Q4.

(御質問) 今後、外国為替事業だけを展開していくつもりか、それとも他の事業にも手を伸ばそうとしているのか。

A4.

メインの事業はFX事業ですが、そのときどきにリスクとリターンを考えて、良いものがあれば参入を検討していきたいと考えております。

Q5.

(御意見) キャンペーン商品に冷凍食品が多く、冷凍庫に入りきらない。もう少し何か選べるような形にしてもらえたらと思う。

A5.

貴重な御意見として承ります。

Q6.

(御質問) 今後、仮想通貨事業に参入することは考えていないのか。

A6.

今回、他社における仮想通貨の流出事件やレバレッジ規制を受け、リスクとリターンを考慮した結果、一旦、仮想通貨事業を断念し、ライオンコイン株式会社を清算いたしました。ただ、今後、規制が緩和されたり、システムの安全面が担保できるような状況になれば、再検討もしていきたいと考えております。